



■ 現状と課題

子育て世帯が多いつくばセンター地区では、移動手段が限られているため、公園や習い事等、近場であっても自家用車を使って移動している。

■ 目指す社会

子どもが安全に移動できる手段を提供することで、中心部の賑わい創出を促進し、子育てに優しい都市としての魅力度向上を目指す。

■ R6取組概要

つくば駅周辺のペDESTリアンデッキにおいて、低速自動運転モビリティ「YADOCAR-iドライブ」による、子どもの安全な移動の実現可能性を調査した。同時に、JAXAの高精度単独測位「MADOCA-PPP」の測位の精度向上と高速化を検証した。

■ R6実証内容・結果

概要	・昼 トナリエ～エキスポセンター（約800m） ・夕 KODOキッズステーション～エキスポセンター（約700m）
日程	R6年9月28日「こどもワークショップ 自動運転モビリティ試乗体験」 R6年9月30日～10月9日 走行試験（10/7は運休日）
実施者	つくば市、東海クラリオン、JAXA
対象	小学生と保護者、一般
実証結果	走行試験 児童26名、保護者等 136名、こどもワークショップ 42名 通行人の実験に対する配慮もあり、事故ゼロで円滑に走行を行うことができた。 MADOCA-PPP測位用データ取得については、ビルや樹木等が比較的多かったものの、概ね問題なく実施することができた。



■ 今後の展開

ペDESTリアンデッキでの社会実装のためには、病院、教育機関、住居など、より広範囲な走行ルートの実現が必要となる。自動運転車両が一般道路を横断する際の交通法規の取り決めや、幅員を広げるために植え込みの移動など、歩行者や、他の交通との共存が図れるコース設計のために自動運転用のロードアセスメントの実施を伴った実証実験を進め、R8年度の社会実装を目指す。